



(公財)大田区文化振興協会が2019年秋に創刊した、地域の文化・芸術情報を盛り込んだ季刊情報紙。「BEE HIVE」とは、ハチの巣の意味。公募で集まった区民記者「みつばち隊」と一緒に、アートな情報を集めて皆さまへお届けします！

紙面で紹介しきれなかった
情報をWEB版「+bee!」で
掲載しています。

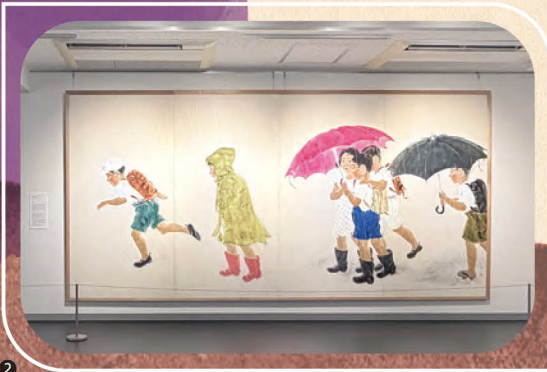


公式PRキャラクターリズムビー



1

芸術の秋 おおた



2

美術館 & ギャラリー巡り



3



4



5

1 山口体験美術館 2 大田区立馬込アートギャラリー 3 ギャラリーダリダダ&芝居小屋銀ジャリ 4 大田区立熊谷恒子記念館 5 ART FACTORY城南島

この秋、まだ見ぬ芸術との出会いに出かける

知っているけれど行ったことがない、あるいは生まれ変わった、新たにオープンしたなど、大田区にはあなたのまだ見ぬ数多くのアートのスポットがあります。

2025年10月にオープンした「山口体験美術館」。人間国宝作家の人形作品コレクションを中心に、陶芸作品や浮世絵など多彩なジャンルの名品が展示されています。鑑賞するだけでなく様々なアート体験ができるのが特長。ここでは食事もし、人間国宝作の茶器での抹茶体験がお勧めです。

「大田区立馬込アートギャラリー」は、2026年2月に開館した大田区のアート拠点施設です。区が所蔵する絵画や書を適切に保存することを目的とし、その作品を活用した展示を行なっています。大田区の未来を担うこどもたちを育成する教育普及プログラムとして、アーティストによるワークショップや対話型鑑賞など

も開催しています。

造形作家・宮本寿恵子^{*1}さんと絵本作家の故みやもとただお^{*2}さんご夫婦の個人ギャラリー「ギャラリーダリダダ」。ただおさんのご逝去にともない休止していましたが、2025年6月に再オープンしました。ギャラリー奥の小部屋は人形劇用の「芝居小屋銀ジャリ」です。

かな書家・熊谷恒子^{*3}が生前住んでいた自宅を改装した「大田区立熊谷恒子記念館」。建てられた90年前当時の雰囲気の中、恒子の優美な書を楽しむことができます。今秋、恒子の没後40年を迎えるにあたり企画展が予定されています。

区内にある都内最大級アート施設「ART FACTORY城南島」。約3,000㎡の倉庫をリノベーションした広いスペース。12月開催の「AFJ OPEN STUDIO -All is FLUX-」では、アーティストのスタジオも見学できます。

山口体験美術館
大田区中央8-28-12 ☎03-6410-2415
otaart.com

大田区立馬込アートギャラリー
大田区南馬込4-10-4 ☎03-6410-7960
ota-bunka.or.jp/facilities/mag
MAG展「異文化へのまなざし」
開催中～11月29日(日)

ギャラリーダリダダ&芝居小屋銀ジャリ
大田区西六郷2-24-10
suekomi72020@gmail.com
daridada_gallery262

大田区立熊谷恒子記念館
大田区南馬込4-5-15 ☎03-3773-0123
ota-bunka.or.jp/kumagai
熊谷恒子没後40年企画展
「熊谷恒子と京都江馬家」
10月17日(土)～11月29日(日)

ART FACTORY城南島
大田区城南島2-4-10
gallery1045.com/archives/location/art-factory-jonanjima
「Love, Hammer and Statues/愛、ハンマーそして彫像」
開催中～11月21日(土)

4面に「おおた美術館&ギャラリー巡り MAP」を掲載しています。

^{*1}: 1944年北海道生まれ。人形劇を中心に演技者として活躍したのち、造形作家として活動を開始。作品は彫刻、絵画、人形という三つの異なる分野が混ざり合った不思議な魅力に溢れる。
^{*2}: 1947-2023。東京生まれ。絵本作家。『えんとつにのぼったふうちゃん』(ポプラ社)で絵本にっぽん賞受賞。『ぬくい山のきつね』(新日本出版社)で2001年度の赤い鳥文学賞挿し絵賞を受賞。
^{*3}: 1893-1986。京都生まれ。かな文字を学びつつ、平安朝の古筆を独習し、独自の境地をひらく。1933(昭和8)年、『土佐日記』で東日・大毎賞受賞。1980(昭和55)年、勲四等宝冠章受章。

アートな
人

会田 誠

美術家



制作中の新作『混浴図』の前の会田さん

©KAZNIKI

老害と言われてもいい。むしろ若者の邪魔をしないですから

大田区にアトリエを構える会田誠さん。絵画、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーション、小説、漫画、都市計画など、その表現領域は多岐にわたり、デビュー以来、常に問題作を発表し続けています。日本はもちろん海外でも活躍する現代を代表する美術家です。

「学生時代はこっそり小説を書いて文学賞に応募して、一次通過はしたけど結局はそこまでとか、そんな風に時間とエネルギーを費やしていました。僕にとって美術家になるというのは嬉しい選択ではなかった。今も絵をずっと描いていると『嫌だ。もう嫌だ』という気持ちになっ

てしまう。『絵具なんかもう触りたくない』と思いつつ描いています」と語る会田さん。

「この年齢になって振り返ってみると、僕の作品のほとんどは、現代日本社会がテーマだと気がきました。『絶対日本社会をテーマにする。それ以外は絶対やらないぞ』なんて思っているわけではないですが、テーマが日本から完全に離れることはないですね。

時代性についてもお聞きしました。「自分は90年代の作家だと思っています。これ

だけは、やっておかなければいけない、世の中に見せておかなければいけないという使命感に駆られてつくった作品は、ほとんど90年代につくっています。売れているかいないかは時間のズレがあるとしても、人間30歳ぐらいの時が表現者としてのピークであることが多いわけです。

「バブルの余波もあって、90年代の終わりまではちょっと浮かれているような時代だった。21世紀は全世界的に困難な時代になってきた感じがしています。今は今の30歳ぐらいの人が中心となって、時代を背負って格闘してつくるべきです。60歳の僕が参戦する必要も権利もない。“ノスタル^じ爺”でいいと思っています。何だったら『90年代は良かったなあ、活気があったなあ』みたいな。老害と言われてもいい。その方がむしろ若者の邪魔をしないですからね。」

会田 誠 Aida Makoto

1965年新潟県生まれ。東京藝術大学油画専攻卒業後、同大学院修了。代表作は『紐育空爆之図(戦争画RETURNS)』(1996)、『電信柱、カラス、その他』(2012)、『MONUMENT FOR NOTHING～赤い鳥居』(2025)など。主な個展は「天才でごめんさい」(森美術館 2012-13)、「GROUND NO PLAN」(青山クリスタルビル 2018)、「愛国が止まらない」(ミヅマアートギャラリー 2021)など。



MONUMENT FOR NOTHING ～赤い鳥居 (2025)
撮影:宮島 啓 ©AIDA Makoto Courtesy of Mizuma Art Gallery

商店街 × アート vol.26

大田区内の商店街にあるアートスポットやイベントを紹介します。



壁に飾られた絵画と窓から見える緑のコラボ

Gallery & Cafe 「いちごの木」
大田区萩中3-12-16 Dream Ship 1F
京急空港線「大鳥居駅」徒歩7分
11:00-17:00 休 水・日曜・祝日

絵が目当ての方も増えている感じがします

Gallery & Cafe 「いちごの木」(萩中)

環八通りから萩中公園へ向かう閑静な住宅街にあるのが2022年オープンのGallery & Cafe「いちごの木」です。中庭にひととき大きな木がたっています。「苺のような赤い小さな実がなるので、いちごの木といいます。母がとても大事にしていたので、お店の名前にしました」と語る店長の小方さん。

明るい店内には素敵な絵画がいくつも飾られています。オーナーは、小方さんのお母さまである日本画家の辻智子さんです。「カフェでゆっくりするのが好きなのですが、周りにそういうお店がなくて、自分が行きたいカフェを作ろうと始めました。落ち着いた私やほかの先生方の絵を観ながら、お茶を飲める空間にしました。絵の入れ替えは2か月に1回ほど、季節に合わせ展示しています。

お客さまの反応を小方さんに何うと、「絵がお目

みつばち隊：本門寺の青空さん



いくつもの窓から差し込む光が店内をやさしく包みこみコーヒーの香りとあいまってとても居心地が良いです。壁に飾られた絵はどれも目を惹くものばかり。地域の人々がこの上質な空間と時間に包まれたくなるのを感じる気がしました。

当ての方も増えている感じがします」。1度いらっしゃって、絵が気に入リリピートされる方もいらっしゃるそうです。

常設だけではなく、作家の展覧会も行なっています。辻「年に1回程度の開催です。今後はもっと増やしていきたいと考えています」。



豊かな植栽と木のドアが目印

第39回大田区在住作家美術展

10月29日(木)～11月5日(木)

各日10:00-18:00(最終日は15:00まで)

大田区民ホール・アプリコ 展示室 小ホール

同時開催:チャリティーオークション、色紙プレゼント、ギャラリートーク、講評コーナー

大田区立 熊谷恒子記念館

かな書の第一人者として活躍した熊谷恒子が生前に住んでいた自宅を改装し、1990年に開館したのが「大田区立熊谷恒子記念館」です。調査および改修工事のため2021年から休館していましたが、2024年に再開しました。担当の主任・飯島千尋さんと佐藤あずささんにお話を伺いました。

「かな書の専門の記念館は、全国的に見ても数少ない特別な存在です。恒子の作品170点ほどを所蔵し、代表作を展示している大変魅力のある記念館です。1階の奥の書斎が恒子自ら『かんせいきょ涵清居』と名付けた仕事場です。書道具などが当時のまま残っています」と語る飯島さん。「実際に作家が暮らし制作していたお家で作品を観るのは、ギャラリーや通常の美術館では味わえない唯一無二の経験になると思います。作品も掛け軸であったり額であったり様々な種類があります。書の美しさはもちろん、和歌の素晴らしさ、表装の見事さなど、総合的に書の文化を体験いただけます」と佐藤さん。

恒子が活動を始めた頃、書の世界で「かな書」はどういう存在だったのでしょうか。飯島「幼少期から古典に親しんできた恒子は、中国から伝わった漢字にも関心を持ち、優美な書を表現してきました。平安時代の古筆に沿った書き方、漢字から生まれた『仮名』の芯の通った表現が恒子のかな書です。繊細ですが、張りのある線が特徴で、そこが恒子のかな書の魅力であり、認められた点だと思います。昭和の時代は男性の書家が主力でしたので、女性の書家が活躍するには厳しい時代でした。熊谷恒子の登場が女性書家の活躍する機会を生んだと思います」。

近年は、パソコンやスマホが普及し、手書き文字文化が消えつつあると言われています。飯島「学校教育や余暇において、書道を楽しむことは貴重な経験となります。大切な文化であるかな書を後世に継承していけたらと思っています」。佐藤「ぜひ、多くの皆さんに、日本独自のかな書の美しさに触れていただきたいです」。

大田区立熊谷恒子記念館

- 📍 大田区南馬込 4-5-15 🕒 9:00-16:30(入館16:00まで)
- 🚶 JR「大森駅」から東急バス4番「荏原町駅入口」行「万福寺前」下車 徒歩5分、都営地下鉄浅草線「西馬込駅」徒歩10分
- 📞 月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/3)、展示替えの臨時休館
- 📞 03-3773-0123 🌐 ota-bunka.or.jp/kumagai



恒子の書斎「涵清居」



昭和初期のモダニズムが漂う応接室



主任の飯島さん(左)と佐藤さん(右)



筆を執る恒子が出迎える記念館の玄関

みつばち隊：西馬込ルウさん

撮影：KAZNIKI



学芸員の方が、お庭の植物の案内図をくださいました。きっと恒子さんは、四季折々に違った表情を見せるお庭を眺めながら、筆をとっていたのでしょうか。そんな姿が思い浮かぶのも、お宅とお庭がきれいに保存されているからです。

大田区内にある文化財に
スポットを当て紹介します。



旧川端龍子邸主屋、中門前から玄関を見る

旧川端龍子邸と大田区立龍子記念館

(国登録有形文化財) 旧川端龍子邸主屋および中門・仏間棟・持仏堂・画室・龍子記念館

- 📍 大田区立龍子公園(大田区南馬込4-49-11)
- 📍 大田区立龍子記念館(大田区中央4-2-1)

川端龍子(1885-1966)は近代日本画の巨匠のひとりです。芸術は広く大衆と接するべきだという「会場芸術」の理念を掲げ、自宅に設けた天井まで4mに達する画室で、大画面の力強い作品をいくつも生み出しました。また、自伝に「普請道楽」と記すように、自宅および記念館は自身で構想しています。石畳の形から照明器具に至るまで、龍子のこだわりが見えます。

龍子が馬込に移り住んだのは、1920年のことです。その時の自宅は空襲で大破するも、わずか2か月後には絵画『さんげ爆弾散華』(1945)へと昇華し、跡地を「爆弾散華の池」として造成しました。一方、1938年に建てた画室は奇跡的に戦禍を免れ、いまでも当時の姿を残しています。戦争を経て仏教への信仰を篤くした龍子は、再

建した自宅に仏間棟を設けます。そこに併設した持仏堂に毎朝礼拝をするのが、晩年の龍子の日課でした。

1963年、龍子は自身の喜寿を記念して龍子記念館を開館しました。雅号*の「龍子」にちなんだ形で、上から見るとまさに龍がうねっているようです。龍子の理念を体現するような構造で、大型作品を鑑賞するのに十分なスペースと、展示空間の変化を見ることができます。

営業日には、職員の案内によって旧宅敷地(龍子公園)の見学が可能です。詳細は公式HP(ota-bunka.or.jp/ryushi)を確認の上、ぜひお越しください。

*芸術家や作家が本名とは別に名乗るペンネームのこと。

文：稲葉実夢(大田区教育委員会 文化財担当)

📞 大田区教育委員会 文化財担当 📞 03-3777-1281

おおた美術館&ギャラリー巡りMAP

- 1 大田区立熊谷恒子記念館** 大田区南馬込4-5-15
JR京浜東北線「大森駅」から東急バス「荏原町駅入口」行
「万福寺前」下車 徒歩5分、都営地下鉄浅草線「西馬込駅」 徒歩10分
- 2 大田区立馬込アートギャラリー** 大田区南馬込4-10-4
JR京浜東北線「大森駅」から東急バス「荏原町駅入口」行
「万福寺前」下車 徒歩5分、都営地下鉄浅草線「西馬込駅」 徒歩10分
- 3 大田区立龍子記念館** 大田区中央4-2-
JR京浜東北線「大森駅」から東急バス「荏原町駅入口」行
「白田坂下」下車 徒歩2分、都営地下鉄浅草線「西馬込駅」 徒歩15分
- 4 山口体験美術館** 大田区中央8-28-12
JR京浜東北線「蒲田駅」 徒歩18分、京急本線「大森町駅」 徒歩18分、
東急バス「池上営業所」下車 徒歩9分
- 5 ギャラリーダリダダ&芝居小屋屋ジャリ**
大田区西六郷2-24-10 JR京急本線「雑色駅」 徒歩7分
- 6 Gallery & Cafe「いちごの木」**
大田区萩中3-12-16 Dream Ship 1F
京急空港線「大鳥居駅」 徒歩7分
- 7 ART FACTORY城南島** 大田区城南島2-4-10
JR京浜東北線「大森駅」、京急本線「大森海岸駅」・「平和島駅」、
東京モノレール「流通センター駅」から
京急バス「森32系統(城南島循環)」乗車、「城南島二丁目」下車 徒歩3分



リズビーReport

リズビーが前号で紹介した人物・場所・イベントなどを訪れます。



アジア雑貨ブランドサヤ 大田区中央4-24-6
エスニックに興味があるリズビー。住宅街に突如現れる店舗は、昭和レトロな雰囲気のショップ&カフェ。アジア雑貨や調度品などが置かれたカフェで、ランチをいただきます。ゆったりとした時間を過ごし、英気を養い次の現場へ！

リズビー公式 X ARTbeeHIVE @abh_rhythbee

注目EVENT

没後30年 宇野千代の華麗なる世界
大森駅開業150年
馬込から大森へ、大森から海浜行楽地へ
開催中～11月29日(日) 9:00-17:00



宇野千代(昭和8年頃)
提供:株式会社宇野千代

仕事に恋に奔放に生きた宇野千代の代表作や編集・発行した雑誌、交流のあった馬込文士らを紹介し、文士らが出向いた大森駅や海浜行楽地の思い出を振り返ります。

大田区立郷土博物館(大田区南馬込5-11-13)
無料 休月曜 03-3777-1070

南端東京 OPEN STUDIO 2026
12月4日(金)・5日(土)・6日(日)
公式ホームページをご確認ください



城南地区に点在する現代美術作家のスタジオを限定公開する「南端東京 OPEN STUDIO」を開催。スタジオツアーのほか関連企画も実施予定です。

オープンスタジオは無料(ツアー・関連企画など有料企画あり)
nantantokyo.net

OTAアート・プロジェクト
馬込文士村フェスティバル2026

12月12日(土)・13日(日) 11:00-17:00 ※イベントにより開催時間が異なります



「馬込文士村」をテーマに、新たに始まるフェスティバル！ホールでの上演、展示、ブックフェア、キッチンカー、記念館講座、スタンプラリーなど、様々な催しを開催します。

大田文化の森 全館(大田区中央2-10-1) 03-3750-1614
一部有料 ※ホール公演(スタンプラリー付き)のみ500円
主(公財)大田区文化振興協会 企画・制作:居間 theater

場所 / アクセス / 開催時間・営業時間 / 休館日・定休日 / 料金 / 主催 / 共催 / 後援 / お問い合わせ / 電話番号 / メール / ホームページ

発見！街角アート

みつばち隊の皆さんが、大田区内の街角で見つけたアートなモノ・バショ・コトを紹介するコーナーです。



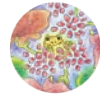
見上げてみたら
みつばち隊:山王すばこさん

ふと見上げると、屋根の装飾に気がきました。それも二つ！カタツムリのツノのような方は、丸い先端部分に渦巻きのような模様があります。「川端龍子」が自ら考えた家紋ではないかと龍子記念館の方のお話です。植物のような方は竜舌蘭とのことで、「龍」が大好きな龍子らしいこだわりだそうです。スマホの影響で視線が下へ行きやすい日常ですが、少し顔を上げると見える素敵な世界があるな、と思いました。



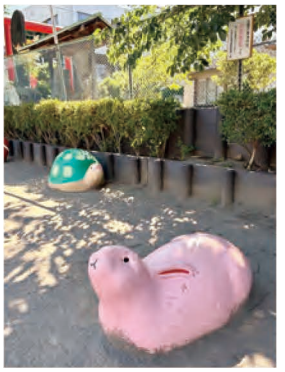
池上を映す呑川のデザイン柵
みつばち隊:黒湯あつしさん

小学生の時、呑川沿いに並ぶ不思議な柵を見つけました。池上本門寺の大堂と五重塔と鴨、梅の枝に止まる鶯、瓦屋根に憩う鳩。これらは、池上2丁目の稲荷橋から4丁目の堤方橋までの間に据え置かれています。社会人になった今も、このデザイン柵が視界に入ると「今日も無事に帰れた」と肩の荷を下ろせます。呑川緑道の自然とともに、池上の街並みを風流に映し出してくれる存在です。



人気のない公園に
心ひかれるアートが隠れている
みつばち隊:西馬込ルウさん

「いい天気だな〜」「こんな日は一句詠みたくなるね」。それぞれ違う方向を見上げて、このような会話をしているウサギとカメは、西馬込の西二児童遊園にいます。稲荷神社の隣にある人気の無い公園で、とぼけた表情の遊具たちを見つけたときはちょっと可笑しく、またうれしくなりました。こんなに絶妙な表情に仕上げた職人さんは、アーティストですね。



編集後記



みつばち隊:馬込RINさん

美術館で行われる対話型鑑賞。美術史や作家の作品知識から話すのではなく、参加者が感じ、考えたことを自由に話し、お互いに聞き合います。発言に頷いたり、新たな視点が思わぬ展開を生むなど、ひとりでは味わえない楽しさです。



みつばち隊:池上のワンコさん

みつばち隊になって気付いたのは、区内のあちこちにあるギャラリーの存在です。気軽に立ち寄れる場所も多く、スマホの地図アプリに登録して楽しんでいます。皆さんも散歩しながら、お気に入りの場所を探してみませんか。



みつばち隊:本門寺の青空さん

美術館に併設されているカフェをよく利用します。展示作品から受け取った驚きと感動を咀嚼、反芻してたたずんでいる人々の姿を店内に見つけることができます。その人たちが醸し出す凛とした空気に包まれると幸せな気分になります。



編集長:MOJOさん

はじめて観た美術展はなんだったのでしょうか。親と行った美術館？いや、みんなの絵が貼られた教室の壁？今は解体された実家の床の間？天井に吊るされたセルロイドのペピーメリー？あ、モノリザならぬ母親の微笑。



みつばち隊:いちよう並木の黒猫さん

ドアを開けると、シャガール『オルフェ』のあふれ出る色彩に目を奪われました。みぞえ画廊十周年展を訪れた時のことです。奥へ進むとピカソやルノワールの展示もありました。ここはパリ？いえ、芸術の街、大田区です。



みつばち隊:羽田たびとさん

展示室を出た後のミュージアムショップは、美術館の隠れた醍醐味。その場所だけの「限定」を見つけると心が躍ります。大人も子どもも夢中になれるワークショップなどのイベントも、私のお楽しみの一つです。



みつばち隊:千鳥のあさがおさん

山口体験美術館にて、人間国宝の茶器を使い抹茶をいただきました。作品を実際に使うことで、アートは遠くの特別なものではなく、生活から生まれるものなのだと気がきました。これからも日常にある美を探したいです。

発行:公益財団法人 大田区文化振興協会

〒144-0052 東京都大田区蒲田 5-37-3 大田区民ホール・アプリコ

03-3750-1614(月～金 9:00-17:00) art-bee-hive@ota-bunka.or.jp

ota-bunka.or.jp X ota_bunka @otabunkaart

大田区文化振興協会チャンネル 大田区文化振興協会 編集・デザイン:MOJOWORK

ART bee HIVEの
詳しい情報はこちら



大田区のアートな情報募集中！

情報をお寄せくださった方には抽選で、情報紙ART bee HIVEの公式PRキャラクターリズビー & 大田区の公式PRキャラクターはねびよんの限定コラボグッズをプレゼント！



応募はこちらから！



この情報紙には印刷インキ工業連合会認定の植物インキを主に使用しています。